

## 子どものまちづくり参画へ誘う「まちづくり絵本」の提案

一般財団法人世田谷トラストまちづくり  
地域共生まちづくり課 まちづくり事業担当  
江口 亜維子

(子どもの参画 住民参加 まちづくり絵本)

### 1. 目的

子ども・若者が輝くまちづくりには、子どもの参画が必要不可欠である。環境教育の専門家 R. ハート (1997) は、地域コミュニティへ子どもが参画する重要性を述べ、子どもの社会への適応能力や社会的成長、責任感の発達などを助けるとともに、コミュニティ組織の機能改善、社会の民主化につながることを示す<sup>※1</sup>。また、社会学者の S. アーンスタイン (1969) は、「住民参加」を住民に対して目標を達成できる権力を与えること、住民が住みたいと思ひ、こうありたいと願う「まち」の実現に実行力を与えることと述べる<sup>※2</sup>。そもそも、住民参加の原動力ともなる「住民が住みたい、こうありたいという思いや願い」はどのように醸成されるのだろうか。

本発表では、絵本が、まちづくりの参画へ誘う第一歩のツールであると考え、国内外のまちづくり関連絵本を整理し、まちづくり絵本の可能性について述べる。

### 2. 方法

まちづくり絵本の関連文献から、まちづくりを絵本からとらえる意義を整理する。また、まちづくりに関連する国内外の絵本の内容を整理し、まちづくり絵本の可能性について検討する。

### 3. まちづくり絵本の意義

これまでに、延藤 (1983, 2015) <sup>※3,4</sup>、高橋 (2001) <sup>※5</sup> が、まちづくりを絵本からとらえる意義や、絵本の中の都市と自然について (表1) のとおり述べている。

延藤、高橋の文献で紹介された絵本の中から、人びとの身近な環境として生活環境に関連するものを整理した (表2)。1970年代までに、環境変化を訴えかける内容の絵本が発表されている。都市化の進行・環境問題が顕著になった時期である。地理学者のレルフ (1976) は、近代化以降に喪失された伝統的で

個性的な場所の喪失や規格化、標準化された景観形成を「没場所性 (placelessness)」と問題提起している。一方、レルフは「意義深い場所と結びつきたいという根深い人間的な欲求」に応じて没場所性を克服するなら、場所が人間のためにあり、場所が多様な人間の経験を反映して高めるような環境が育まれる」と示す<sup>※6</sup>。1980年代以降発表され始めた環境改善を扱う絵本からは、その「欲求」に答え自分たちの手で環境改善する「住民参加」の姿勢や、そのまち“らしい”まちづくりが「没場所性」の克服となりうる可能性が見える。

表1 まちづくりと絵本の関係性

延藤安広「まちづくりを絵本からとらえる意義」 <sup>※3,4</sup>
<ul style="list-style-type: none"> <li>大人も子どもも、生きる・住まう・まちを育む気持ちや行動を自由にもち、想像力を育む。</li> <li>子どもが身近な環境に関心を持ち、環境・自然を愛しむ。</li> <li>よりよい住まいや町づくりの文化のすそ野をひろげ、支える役割を担う。</li> <li>楽しみながら学ぶ教育・学習における本質的役割を担う。</li> </ul>
高橋理喜男「絵本の中の都市と自然」 <sup>※5</sup>
<ul style="list-style-type: none"> <li>自然・都市環境における様々な課題に関する理解を深め、解決の手段を模索するための指針を与える。</li> <li>子どもも大人も、絵本を通して、本当に生きたいと思うユートピアを描く手がかりが得られる。</li> </ul>

表2 生活環境に関連する絵本リスト

<p>【環境の変化を扱った絵本】急速な都市化による、田園的、歴史的環境の喪失、変化を扱った絵本。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• パージニア・パートン『ちいさいおうち』(1942)</li> <li>• イエルグ・ミュラー『変わりゆく風景』(1974)</li> <li>• イエルグ・ミュラー『変わりゆく街』(1977) など</li> </ul>	<p>【環境改善を扱った絵本】近代化の過程で荒廃した環境を主人公や町の人たちの手で改善する物語を扱った絵本</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• Susan Moxley『Gardener George Goes to Town』(1982)</li> <li>• ジーニー・ベイカー『Belonging』(2004)</li> <li>• ピーター・ブラウン『ふしぎなガーデン』(2010) など</li> </ul>
--	--

4. 考察と今後の課題

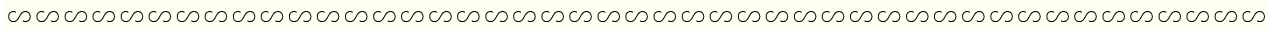
絵本は、住民参加の原動力となる意欲、発意が促され、住民参加の第一歩のツールとなりうる。また、自己、他者との対話を生み出し、新たな参加のデザインを共に探求するツールになると考えられる。コロナ禍においては、デジタル媒体ではなく、紙媒体で場所性に触れるツールとしての可能性も考えられる。



発表者写真

【参考文献】

- ※1 ロジャー・ハート著；IPA日本支部訳：子どもの参画：コミュニティづくりと身近な環境ケアへの参画のための理論と実際，萌文社，2000
- ※2 Sherry R Arnstein, "A Ladder of Citizen Participation," JAIP, Vol. 35, No. 4, pp. 216-224, 1969
- ※3 延藤安広：こんな家に住みたいナ-絵本による住宅と都市，晶文社，1983
- ※4 延藤安広：こんなまちに住みたいナ-絵本が育む暮らし・まちづくりの発想，晶文社，2015
- ※5 高橋理喜男：絵本の中の都市と自然，東方出版，2001
- ※6 Edward Relph, Place and placelessness, Routledge Kegan & Paul, 1976 (エドワード・レルフ 著；高野岳彦，阿部隆，石山美也子訳：場所の現象学，筑摩書房，1991.9)



<助言者コメント>

園田 巖（東京都市大学人間科学部児童学科准教授）



近年、時代とともに地域社会が変貌するなか、子ども・若者が輝くまちを創造することは、今日のまちづくりを考えるにあたってとても重要な視点となっています。

本発表では、子どもがまちづくりに参画することにより子どもの発達に良い影響を与え、とりわけ社会への適応能力の獲得、社会性の育成、責任感の発達に寄与できることについて指摘しています。また、それを実現するための重要なツールとして絵本の活用を提案している点については、今後のまちづくりの新しい視点として大いに評価できるとともに非常に興味深いアプローチであると感じました。

誰にとっても身近な存在である絵本に着目したまちづくりは、人と人をつなげ、コミュニケーションが促進されます。その結果、コミュニティの形成が醸成され、誰もが楽しくそして満足度の高いまちづくりが実現されると考えられます。

大変興味深い研究であるとともに、展開に大きな広がりを感じられる実践であると思いますので、今後実践場面での報告を期待しています。